

エコアクション21

環境経営レポート2025



第23期

対象期間 2025年7月～2026年6月



エコアクション21
認証番号0008570

2026年9月1日発行



株式会社テクノ月星



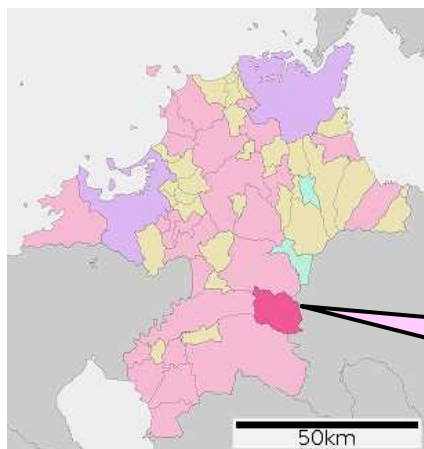
目 次

1. 組織の概要	4
2. 認証・登録の対象範囲と主要製品	4～5
3. 環境経営方針	6
4. 環境経営推進体制	7
5. 環境経営目標	8
6. 環境経営計画	9
7. 環境経営目標の実績	10～11
8. 環境経営計画の取組結果と評価	12～13
9. 来年度の環境経営の計画	14
10. 環境関連法規の確認及び評価、並びに違反、訴訟等の有無	15
11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果	16

当社所在地

福岡県うきは市の風景

美しい自然と伝統文化はうきは市の宝です。当社は緑豊かな田園地帯のなかに位置しており、工場内には農業用水路もあります。周囲の環境へ配慮した操業にこれからも努めてまいります。



福岡県うきは市
当社所在地

うきは市特産のフルーツ



つづら棚田(日本の棚田百選)



吉井 白壁土蔵の街並み



道の駅うきは



浮羽稲荷神社



調音の滝



筑後川の花火



1. 組織の概要

① 事業所名 代表者氏名	株式会社 テクノ月星 代表取締役 柿永 正利																
② 所在地	本社 〒839-1498 福岡県うきは市浮羽町高見215番地 TEL 0943-77-2141 FAX0943-77-6949																
③ 環境管理責任者 担当者連絡先	常務取締役総務部長 樋口 勝範 総務部次長兼工務課長 田辺 智之																
④ 事業の概要 主要製品	工業用エラストマー製品の設計・開発及び製造 ゴムガasket、ゴムスリーブ、ゴムホースなど																
⑤ 事業の規模	<table><tr><td></td><td>2023年度</td><td>2024年度</td><td>2025年度</td></tr><tr><td>売上高（百万円）</td><td>3,478</td><td>3,776</td><td>3,978</td></tr><tr><td>従業員数（人）</td><td>225</td><td>230</td><td>222</td></tr><tr><td>延床面積（㎡）</td><td>27,732</td><td>27,732</td><td>28,943</td></tr></table> ※売上高は生産金額に管理費、運搬費等を加えたものである。		2023年度	2024年度	2025年度	売上高（百万円）	3,478	3,776	3,978	従業員数（人）	225	230	222	延床面積（㎡）	27,732	27,732	28,943
	2023年度	2024年度	2025年度														
売上高（百万円）	3,478	3,776	3,978														
従業員数（人）	225	230	222														
延床面積（㎡）	27,732	27,732	28,943														
⑥ 事業年度	7月～翌年6月																
⑦ 法人設立年月日	2004年4月1日																
⑧ 資本金	90 百万円																

2. 認証・登録の範囲（全組織、全活動）

① 事業所名 所在地	株式会社 テクノ月星 〒839-1498 福岡県うきは市浮羽町高見215番地
② 対象組織	本社・工場
③ 対象活動	工業用エラストマー製品の設計・開発及び製造
④ 関連事業所	なし



工場内を通る水路と
周囲のみどり

主要製品

●化成品事業部

各種工業用ゴム成型品



発泡PVCクッション材



耐電ゴム手袋



マルチコート
(ガラスびんコーティング)

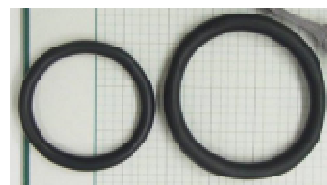
ガラスびんの破損防止、軽量化に貢献します。

環境関連商品

次世代のクリーンエネルギーである高圧水素に対応する
Oリングを福岡県と共同で開発しました。(特許出願中)
一般Oリング



高圧水素ガスシール用Oリング



曝露前 曝露後

新開発Oリング



曝露前 曝露後

●工業用品事業部

製鉄用ゴムスリーブ



ゴム押出成型品・自動車部品



各種ゴムライニング



各種工業用ゴム成型品



船舶・港湾用防舷材



各種シリコンゴム・
ウレタンゴム成型品

経営理念

私たちテクノ月星は お客様に満足いただける
価値ある「もの創り」を通じて社会に貢献します

環境経営方針

〈環境理念〉

当社は、企業活動のあらゆる面で環境保全に配慮し、
継続的な改善を通じて、緑豊かな地域環境を守ると共に、
地球環境への負荷低減や持続可能な社会づくりに取り組みます。

〈行動指針〉

1. 重点目標

- (1) 節電と省エネルギー化に努め、二酸化炭素排出量を削減します
- (2) 廃棄物の削減及び再資源化に取り組みます
- (3) 節水に努め、水使用量を削減します
- (4) 化学物質使用量の削減と適正管理に努めます
- (5) 生産の効率化に取り組み、環境配慮に努めます

2. 環境関連法規及び、当社が同意するその他の要求事項を遵守します

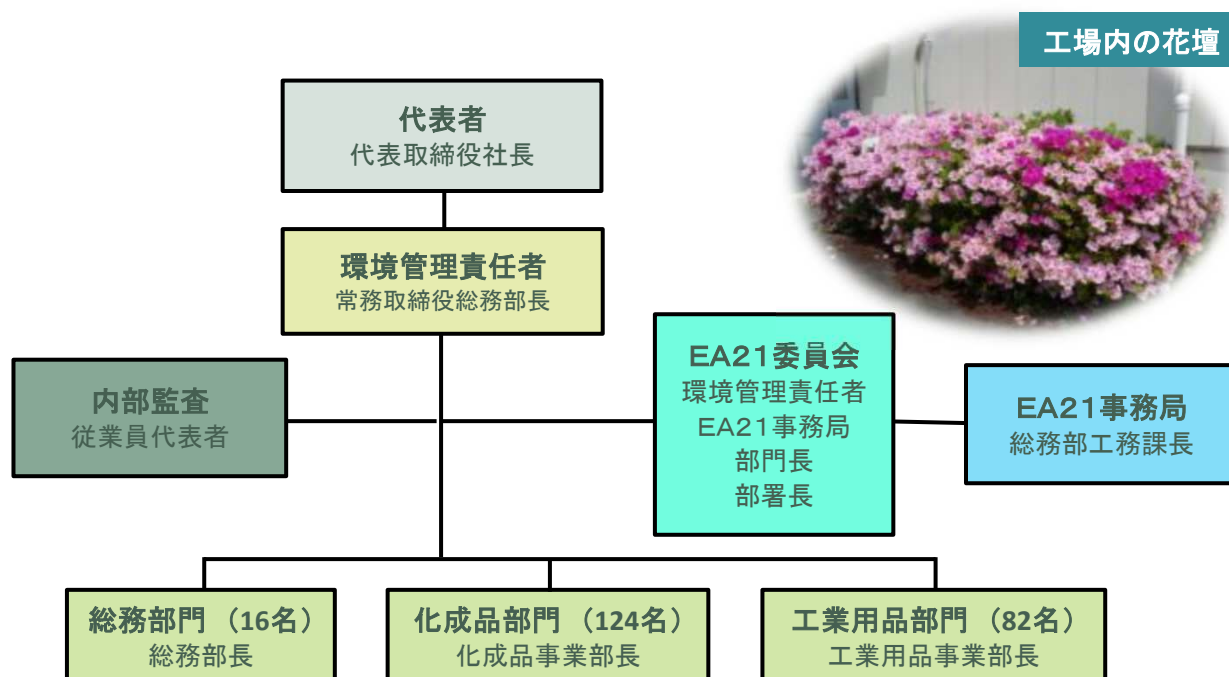
3. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸で環境活動を推進します



2020年7月1日 改定

株式会社テクノ月星
代表取締役 柿永 正利

4. 環境経営推進体制



【役割分担】

所属	役割・権限・責任
代表者	- 代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ - 環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する - 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する - 環境への取組を実施する為の資源（人・物・金・情報等）を用意する - EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	- EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる - 環境経営目標、環境経営計画を作成する - 毎月1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実行状況を確認する - 上記の結果を代表者に報告する - 内部監査を計画する
EA21委員会	環境問題に関する必要事項を協議、検討、審議する（毎月の生産販売会議に引き続き開催する）
EA21事務局	- 環境管理責任者を補佐し、EA21文書、記録類及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う - 社外からの環境情報の収集と伝達を行う
内部監査委員	自社の環境への取り組みについて内部監査を行う（内部監査についてはEA21委員会と独立した立場で行う）
部門長	- 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する - 環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境経営活動を推進する - 自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する - 自部門に関連する法規制等を遵守する - 自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する - 自部門の教育・訓練を実施する
全社員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する - 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

5. 環境経営目標

環境経営目標 (単位)		基準年度 (2021年度実績)	当年度 (2025年度) 目標値	2026年度 目標値	2027年度 目標値	2028年度 目標値
			(基準年度 △2.0%)	(基準年度 △2.2%)	(基準年度 △2.5%)	(基準年度 △2.7%)
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂)	2,649,471	4,319,517	4,489,237	4,517,622	—
	原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	1,201	1,177	1,175	1,171	1,145
電力使用量	総量 (kWh)	2,830,868	4,621,631	4,803,222	4,833,592	—
	原単位 (kWh/百万円)	1,285	1,259	1,257	1,253	1,225
ガソリン使用量 ※前年度比△1%で設定	総量 (L)	7,328	15,377	15,861	15,856	—
	原単位 (L/百万円)	4.35	4.19	4.15	4.11	4.07
軽油使用量 ※前年度比△1%で設定	総量 (L)	5,442	9,212	9,479	9,491	—
	原単位 (L/百万円)	2.63	2.51	2.48	2.46	2.44
灯油使用量	総量 (L)	23,853	29,924	31,099	31,296	—
	原単位 (L/百万円)	8.32	8.15	8.14	8.11	7.93
LPG使用量	総量 (kg)	25,386	31,866	33,118	33,327	—
	原単位 (kg/百万円)	8.86	8.68	8.67	8.64	8.45
LNG使用量	総量 (kg)	531,520	866,781	900,838	906,534	—
	原単位 (kg/百万円)	241	236	236	235	230
廃棄物排出量 ※前年度比△1%で設定	総量 (kg)	307,280	745,010	768,222	767,742	—
	原単位 (kg/百万円)	121	203	201	199	197
水使用量 (地下水) ※前年度比△1%で設定	総量 (m ³)	244,697	392,690	405,132	405,090	—
	原単位 (m ³ /百万円)	111	107	106	105	104
化学物質の 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
生産効率化 (化成品工場)	生産性 (円/h)	7,365	8,968	未設定	未設定	未設定
生産金額計画	(百万円)	2,203	3,670	3,822	3,858	未設定

※基準年度は、生産品目の変化(自動車向け押出品量産開始)等の要因により従来目標値と現状値に乖離が出てきた為、二酸化炭素排出量と主要エネルギー使用量目標においては2021年度実績を基準値とした暫定目標値を設定した。
 ※二酸化炭素排出量削減において、購入電力の排出係数は、0.371kg-CO₂/kWh(2019年度九州電力、調整後)を使用した。
 ※廃棄物排出量の目標値は生産品目変化で実状に合わせ2023年度に目標値を変更した。(2023年度上期実績を基に設定)
 ※原単位目標の単位は排出量または使用量/生産金額(生産効率化の単位は生産金額/操業時間)とする。

6. 環境経営計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減 目標: 基準値比1.8%以上削減(単位: 生産金額当たり)

取組目標	活動項目
電気使用原単位の削減	・照明器具LED化推進(中期計画)
	・省エネ機器への更新計画
LNG使用原単位の削減	・工場毎の蒸気供給時間管理
	・蒸気漏れ箇所の早期改修(随時)
軽油使用原単位の削減	・輸送品の混載便活用の推進
灯油使用原単位の削減	・押出作業時間／工程の検討・調整(加熱設備)
	・押出CV-2起動時間の見直し(時季変動対応)

※初期に想定した環境経営計画に加え軽油・LPGの使用量及び削減目標を追加。

(2) 産業廃棄物排出量の削減 目標: 前年度比1%以上削減(単位: 生産金額当たり)

取組目標	活動項目
不良損失率削減	・作業指導・品質教育の実施
	・プロジェクトチーム活動の活性化
廃却ゴム金額の低減	・押出: 廃却内容の分析、改善／生産工程の見直し
	・ラッピング: 貼付厚み・長さ管理／製法見直し、レベルアップ

(3) 水使用量の削減 目標: 前年度比1%以上削減(単位: 生産金額当たり)

取組目標	活動項目
節水活動の推進	・防火用水吐出量調整(時季により調整)
	・給水系統の点検・整備

(4) 化学物質の適正管理

取組目標	活動項目
使用量の適正管理	・品種毎の使用量、在庫量の把握
	・目で見える管理の推進

(5) 生産効率化の取組み

取組目標	活動項目
生産性向上取組みの推進	・化成品: 製造課・技術課が連携し、3Mカイゼンに取り組む
	・工業用品: 加硫前検査の徹底、製造方法の確立、作業手順書の改善

7. 環境経営目標の実績

達成状況の判定 ○:達成率 $\geq$ 100% △:100>達成率 $\leq$ 75 ×:達成率 $<$ 75 達成率:目標値/実績値 $\times$ 100

環境経営目標 (単位)		当年度 (2025年度) 目標値	当年度(2025年7月～2026年6月)実績		
			実績値	達成率	達成度
二酸化炭素排出量	総量 (kg-CO ₂)	4,319,517	3,522,038	120%	○
	原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	1,177	982		
電力使用量	総量 (kWh)	4,621,631	4,156,171	109%	○
	原単位 (kWh/百万円)	1,259	1,159		
ガソリン使用量	総量 (L)	15,377	8,385	179%	○
	原単位 (L/百万円)	4.19	2.34		
軽油使用量	総量 (L)	9,212	4,965	181%	○
	原単位 (L/百万円)	2.51	1.38		
灯油使用量	総量 (L)	29,924	20,820	140%	○
	原単位 (L/百万円)	8.15	5.80		
LPG使用量	総量 (kg)	31,866	23,062	135%	○
	原単位 (kg/百万円)	8.68	6.43		
LNG使用量	総量 (kg)	866,781	655,240	129%	○
	原単位 (kg/百万円)	236	183		
廃棄物排出量	総量 (kg)	745,010	623,710	117%	○
	原単位 (kg/百万円)	203	174		
水使用量 (地下水)	総量 (m ³)	392,690	310,479	124%	○
	原単位 (m ³ /百万円)	107	87		
化学物質の 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
生産効率化 (化成品工場)	生産性 (円/h)	8,968	8,822	98%	△
生産金額	(百万円)	3,670	3,587	※達成率と判定は原単位対象	

※二酸化炭素排出量において、購入電力の排出係数は、0.371kg-CO₂/kWh(2019年度九州電力、調整後)を使用した。

※原単位目標の単位は排出量または使用量/生産金額(生産効率化の単位は生産金額/操業時間)。

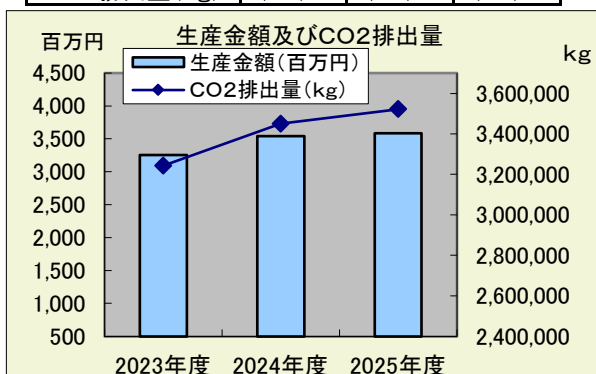
※廃棄物排出量の目標値は生産品目の変化で実状に合わせ目標値を変更した。(2023年度上期実績を基に設定)

※主な化学物質の年間使用量はトルエン:3,300kg/年、キシレン:2,600kg/年でした。

過去3年間の環境負荷推移

生産金額及び二酸化炭素(CO2)排出量

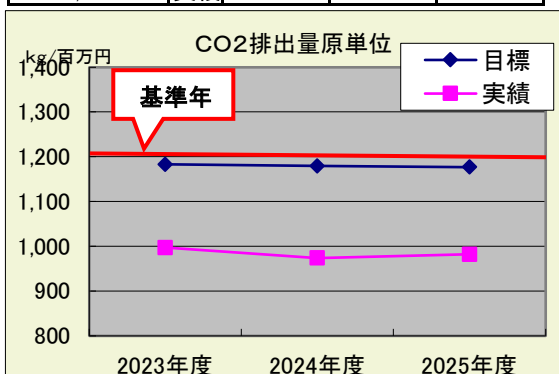
	2023年度	2024年度	2025年度
生産金額(百万円)	3,252	3,541	3,587
CO2排出量(kg)	3,243,160	3,449,426	3,522,038



評価: 2025年度の生産金額は主要製品の増産や値上げ効果等により増加した。増産によるエネルギー消費増や猛暑による空調エネルギー増の影響もあり、CO2排出総量も増加した。原単位は電力使用量増加の影響もあり前期比で若干悪化した。

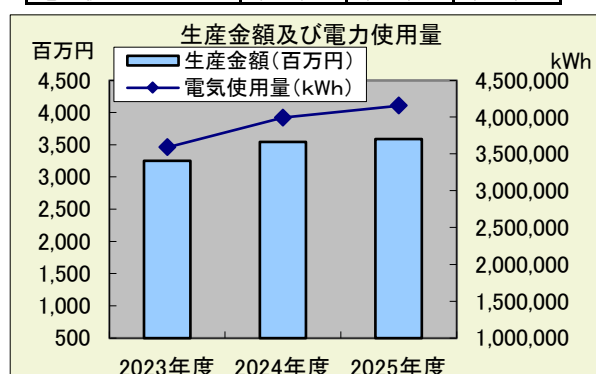
CO2排出量原単位(kg/百万円)

基準年	年度	2023年度	2024年度	2025年度
	目標	1,183	1,179	1,177
1,201	実績	997	974	982



生産金額及び電力使用量

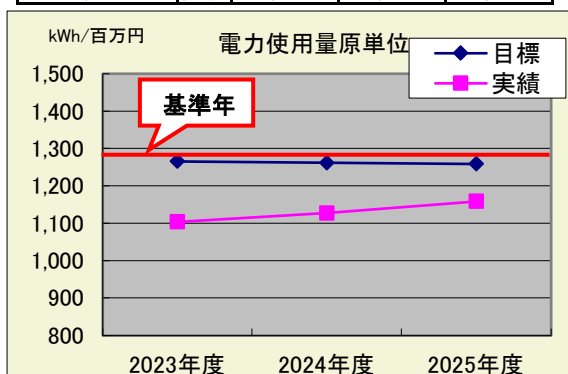
	2023年度	2024年度	2025年度
生産金額(百万円)	3,252	3,541	3,587
電気使用量(kWh)	3,591,756	3,992,449	4,156,171



評価: 増産により設備稼働が増加したことや猛暑影響もあり電力使用量が前年より増加した。猛暑の熱中症対策での職場環境改善、材料保管環境の維持等による電力消費が増加し、原単位は前年より上昇したが、目標は達成した。

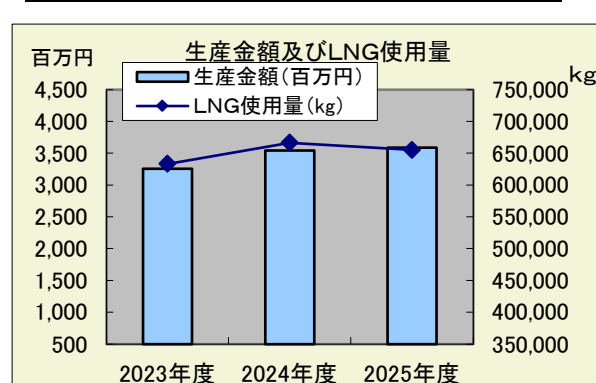
電力使用量原単位(kWh/百万円)

基準年	年度	2023年度	2024年度	2025年度
	目標	1,266	1,262	1,259
1,285	実績	1,104	1,127	1,159



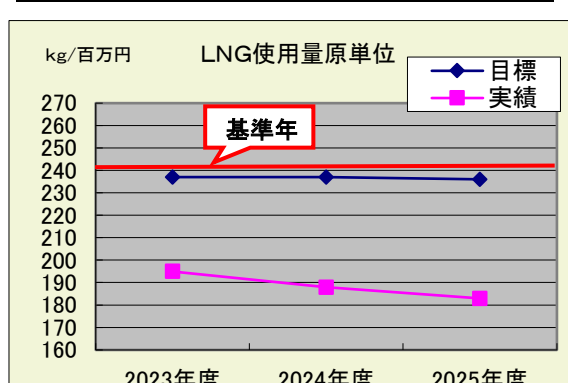
生産金額及びLNG使用量

	2023年度	2024年度	2025年度
生産金額(百万円)	2,865	3,252	3,541
LNG使用量(kg)	633,292	666,470	655,240



LNG使用量原単位(kg/百万円)

基準年	年度	2023年度	2024年度	2025年度
	目標	237	237	236
241	実績	195	188	183



評価: 生産増や不良低減、歩留まり改善による生産効率向上や気候の高温傾向の影響もあり主にボイラ燃料、加熱工程に使用するLNGの使用量は前年比で低下した。原単位も前年に比べて低減され、目標達成した。

8. 環境経営計画の取組結果と評価

達成状況の判定 ○:達成率≥100% △:100>達成率≥75 ×:達成率<75 達成率:目標値/実績値×100

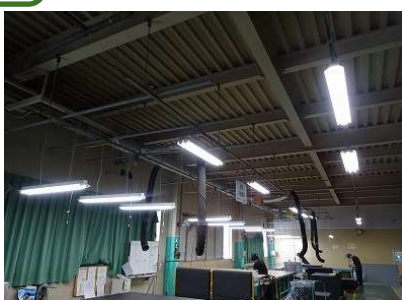
実施状況の判定 ○:実行されている △:実行されているが十分でない ×:実行されていない

(1)二酸化炭素排出量の削減 目標:基準値比2.0%以上削減(単位:生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
電気原単位削減	○	照明機器LED化	○	既存工場の照明LED化を中期計画で段階的に進めている。設備更新時には高効率機器の選定を条件に加えている。また、化石燃料から電気への転換も視野に検討する。猛暑により熱中症対策を各所で実施しており、電力消費は増加傾向にある。
		高効率機器への更新	○	
		省エネパトロール	△	
LNG原単位削減	○	工場毎の蒸気供給時間管理	○	工場部門とエネルギー供給部署との稼働状況の密な連絡により適正な蒸気供給時間管理を実施している。漏れ箇所の早期改修に努めている。
		蒸気漏れの早期改修	○	
ガソリン原単位削減	○	低燃費車の導入・更新	○	低燃費車への更新も継続中。商談、会議等のWeb活用で営業車で移動も減少しており、ガソリン使用量が低減されている。
灯油原単位削減	○	押出作業時間/工程の検討・調整	○	押出機予熱時間の季節毎の必要時間を細分化設定し実行中。今後も適正な加熱時間管理を継続していく。
		押出起動時間の見直し	○	
軽油原単位削減	○	混載便の活用推進	○	混載便活用により自社トラック輸送の削減推進中。
LPG原単位削減	○	加熱時間の管理	○	加熱の必要時間、必要温度を細分化設定し実行中。今後も適正な加熱時間管理を継続していく。
		工程の検討・調整	○	

【主な活動事例】

工場内照明LED化推進 2025年9月



老朽エアコン更新 2025年12月



新工場建設(生産工程恒温、恒湿) 2026年1月

- ・空調機器高効率機器選定/断熱建材採用
- ・加熱設備の電気熱源採用



(2) 産業廃棄物排出量の削減 目標: 前年目標比1%以上削減(単位: 生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
不良損失率削減(化成品)	△	作業指導・品質教育 プロジェクトチーム活動	○	不良損失率は低減活動を継続。従来より高い目標を掲げて低減活動を継続中。主力製品の不良低減が見えてきた。
廃却ゴム率削減(工業用品)	△	押出廃却内容分析・改善 貼付厚み・長さ管理 ゴム横流れ改善	○	抜本的改善策の研究、改善案件の他品種への水平展開等の課題解決へ向け活動中。

(3) 水使用量の削減 目標: 前年目標比1%以上削減(単位: 生産金額当たり)

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
節水活動の推進	○	防火用水吐出量調整 給水系統の点検・整備	○	気候の高温傾向で夏季の機器冷却水使用量増加や熱中症対策での打ち水等も増加傾向にある。

(4) 化学物質の適正管理

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
使用量管理の徹底	○	使用量・在庫量の把握 目で見える管理の推進	○	各部署で適正に管理され活動は継続されている。

(5) 生産効率化の取組み

取組目標	達成状況	活動項目	実施状況	評価
生産性向上取組みの推進	△	3M(ム)カイゼンの取組み	○	主力製品の生産増により稼働効率も良くなり生産性が向上してきた。製品値上げの影響もある。高い目標設定にチャレンジしたが僅かに目標に至らず。 ムリ・ムダ・ムラの削減等の活動も進めており、更なる生産性向上を目指す。
		加硫前検査徹底、製法確立、作業手順書	○	

【その他の活動】 緊急事態を想定した訓練

・消火避難訓練(年2回実施)

2026年2月 浮羽消防署合同消火避難訓練



・消火栓操法大会(防災協会)

2025年10月



9. 来年度(2026年7月～2027年6月)の環境経営の計画

環境経営目標	SDGs	環境経営計画
二酸化炭素排出原単位の削減 (電力原単位の削減) (LNG原単位の削減) (LPG原単位の削減) (ガソリン原単位の削減) (軽油原単位の削減) (灯油原単位の削減)	 	○照明機器LED化の推進(中期計画で進行中) ○太陽光発電検討(中長期で検討) ○省エネパトロール、漏れ箇所の早期改修 ○低燃費車への更新、電動フォークリフトの採用 ○輸送品の混載便活用の推進継続 ○押出し作業時間／加熱・作業工程の検討 ○各種老朽化設備の高効率機器への更新検討
廃棄物排出量(原単位)の削減	 	○作業指導・品質教育による不良低減 ○プロジェクトチーム活動の活性化による不良低減 ○押出品の廃却内容の分析・改善／生産工程の見直し ○押出材料の安定化による不良低減 ○ラッピング貼付厚・長さ管理、研磨代見直し、製法の 見直しと作業レベルアップによる廃却ゴム量削減 ○ラッピングゴム横流れ押え改善／スリーブ改善活動の 推進による廃却ゴム量削減 ○OWS押出品の不良低減活動／取引先と連携して推進
水使用量(原単位)の削減		○防火用水吐出量調整 ○給水系統の点検・整備
化学物質の適正管理		○品種毎の使用量・在庫量の把握 ○目で見える管理の推進
生産効率化の取組み	 	○製造・技術が連携しムリ・ムダ・ムラの削減に取り組む ○ライニング加硫前検査の徹底(工程検査員養成) ○製造方法の確立、構造物作業手順書の改善

【継続活動項目】活動が定着し、継続実施している項目

環境経営目標	SDGs	活動項目
電気使用量の削減		○未使用エリアの消灯及び空調の停止 ○空調の適正温度管理
ガソリン使用量の削減		○エコ運転の実施 ○Web活用等により車移動の削減

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)	遵守状況
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃プラ、木くず、廃油)	適
騒音規制法	コンプレッサ、合成樹脂射出成型機	適
振動規制法	コンプレッサ、合成樹脂射出成型機、ゴム練りロール機	適
水質汚濁防止法	特定施設: 直接加硫缶、重油貯蔵施設	適
大気汚染防止法	ボイラ	適
悪臭防止法	キシレン、MIBK	適
容器包装リサイクル法	「まな板」製品の包装資材	適
工場立地法	9,000m ² 以上の工場敷地	適
消防法	危険物施設、火災報知器、消火設備、指定可燃物貯蔵庫 熱風炉	適
化管法	第1種指定化学物質(トルエン、キシレン、チウラム、N-(ter t-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド)	適
毒物及び劇物取締法	毒物、劇物、特定毒物(トルエン、キシレン)	適
下水道法	50m ³ /日以上を排出する事業場	適
フロン排出抑制法	冷媒としてフロン使用の業務用機器	適
土壌汚染対策法	水濁法特定施設工場跡地 ※2013年6月 公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構による第1種特 定有害物質11種(塩素系有機溶剤等)、第3種特定有害物質(チウラム) の土壌調査実施。工場内13地点の土壌ガス調査、表層土壌調査の結 果、いずれの物質も検出なし。	適
特定工場における公害防止 組織の整備に関する法	水濁法の汚水等排出施設(直接加硫缶)に対する公害防止 管理者(水質)選任	適
労働安全衛生法	有機溶剤(有機則)、特定化学物質(特化則)、小型貫流ボ イラ及び第1種、第2種圧力容器(ボイラ則)	適
高圧ガス保安法	LNGサテライト設備(第一種貯蔵所)	適
省エネ法	第二種エネルギー管理指定工場: 事業所全体のエネルギー 使用量(原油換算値)1,500kL/年度以上 ⇒2019年6月指定	適
ウラン又はトリウムを含む原材 料、製品等の安全確保に関す るガイドライン	トリウムの放射能が1Bq/gを超える場合	適

2026年6月30日 上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘や利害関係者からの訴訟もありません。

11. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

	項目		評価
全体評価	環境経営方針		全従業員が環境経営方針と自身の所属部署毎の目標に対して、環境負荷軽減を意識した生産活動を推し進めてください。
	環境経営目標及び環境経営計画実施状況		主力製品の増産影響や歩留りと不良率も向上してきた事、原材料価格や経費の上昇による価格転嫁を進めた事等により全体の生産金額が増加した事で生産に対するエネルギーの効率化が進んだ。一方、安全第一の観点から、夏季の熱中症対策を強化したことで電気使用量は増加傾向にある。 照明LED化やエアコン更新等の高効率機器の採用を随時進めており、CO2排出原単位、エネルギー使用原単位は、全項目で目標を達成した。
見直し・指示	指示項目	変更の必要性	指示内容
	①環境経営方針	今後変更が必要	中期計画でSDGsの取り組みについて検討する。
	②環境経営目標	継続監視 状況に応じ見直し	生産品目の変化や生産量の変化により、生産設備のエネルギー負荷の大幅な変動や廃棄物量の変化が今後も予測される。2026年度も前期に続き、暫定目標を設定して監視し、随時目標値の見直しを行なう。
	③環境経営計画	なし	継続実施
	④環境経営システム	今後変更も検討	EA21も10年以上経過しマンネリ化が有り、目新しい改善部分も検討する時期にある。今後の検討課題とする。
	⑤実施体制	なし	継続



株式会社 テクノ月星

代表取締役 柿永 正利

確かな技術で 切り拓く未来



Techno-Tsukihoshi

〒839-1498
福岡県うきは市浮羽町高見215
株式会社テクノ月星
TEL : 0943-77-2141
FAX : 0943-77-6949
